

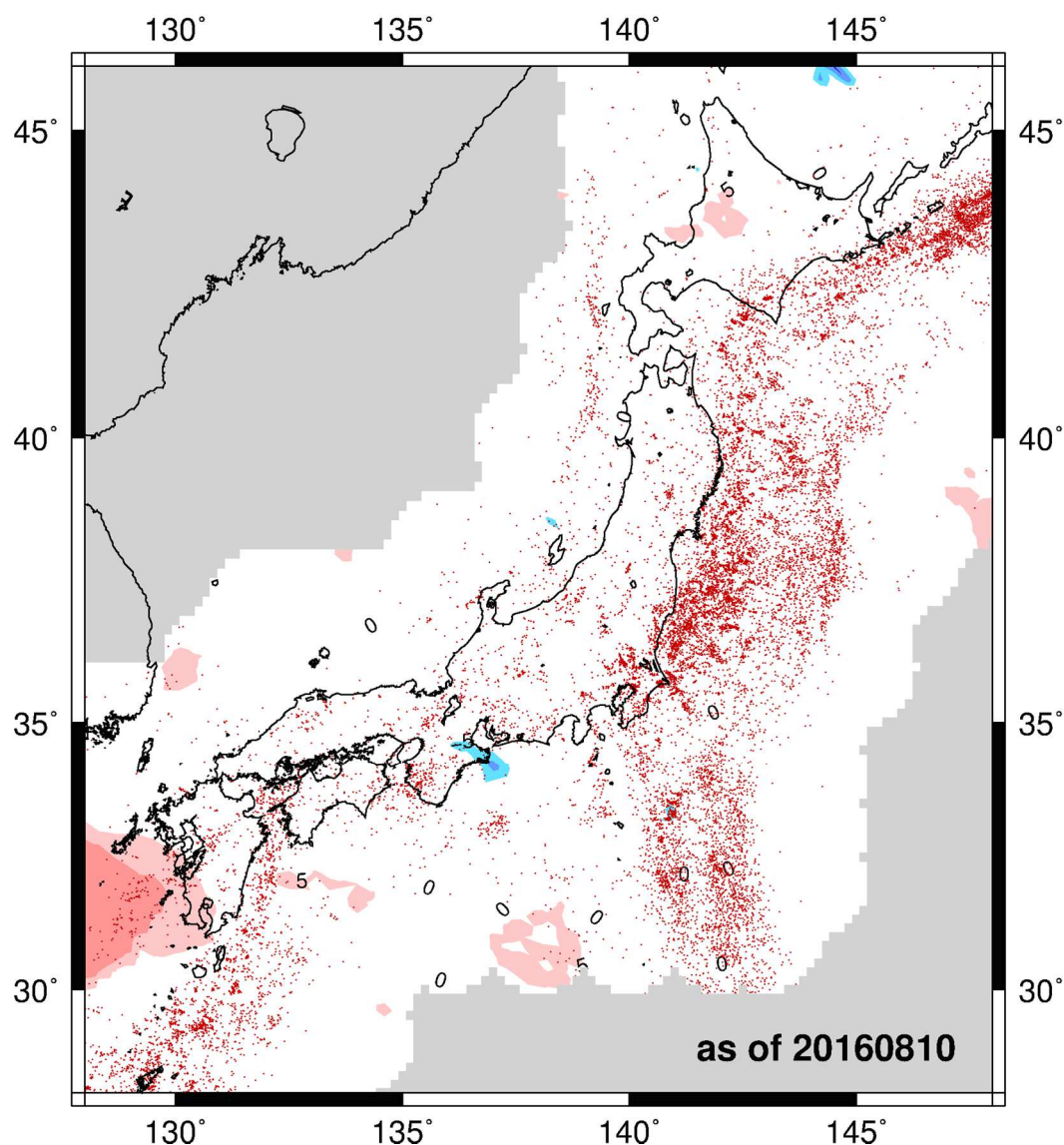


DuMA ニュースレター

2016年08月15日

日本列島全体の地下天気図® (特に海域の M7.5 以上の地震について)

今回の情報は5月9日にもニュースレターでお示した日本列島全域の地下天気図®の続報です。下の図は8月10日時点の地下天気図®です。現時点では、日本列島全域で顕著な地震活動静穏化領域は認められません。またこの解析では、海域における大地震にチューニングした解析を行っています。陸域については、これからも地域ごとに最適のパラメータで解析した結果をDuMAでは示していきたいと思えます。



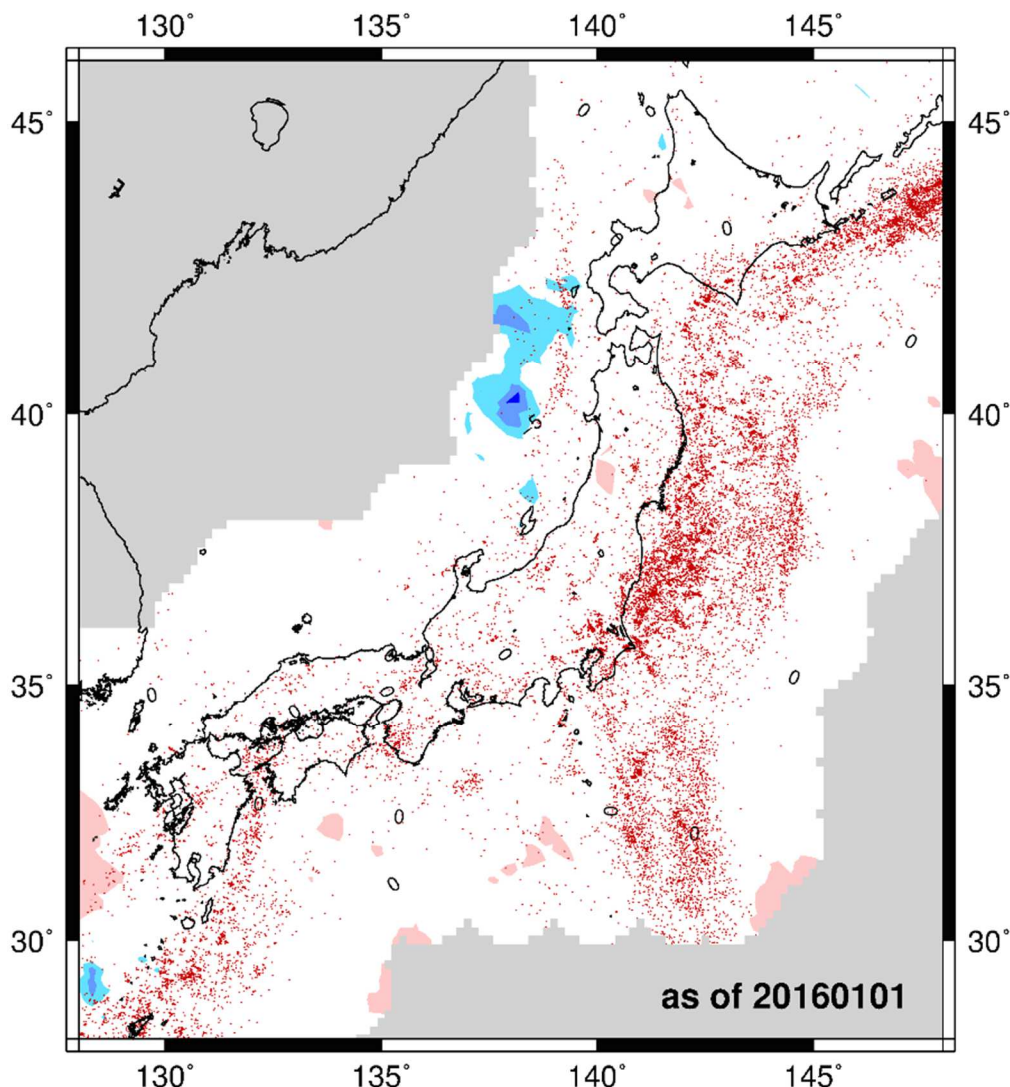
ただこれまでも繰り返し述べていますが、「地震は静穏化(図中で青く示されている)の異常が終了してから発生する可能性が大きい」という事です。そうしますと今年の1月の段階で出現していた日本海(秋田・青森沖)はまだ十分注意が必要な領域です。

この日本海東縁というのは、1993年の北海道南西沖地震(マグニチュード7.8)や、その南側では1983年に日本海中部地震(マグニチュード7.7)が発生しています。歴史的にも大きな地震が一系列に並んで発生しており、研究者はここに新しいプレート境界が存在すると考えているのです。



下に示す地下天気図®は今年1月1日時点のものです(再掲)。日本海東縁部に顕著な異常が存在していた事が確認できます。

熊本地震の発生はありましたが、全体としてはここ半年ほどの日本およびその周辺の地震活動は大きな変化なく推移しているのが現状です。



補足：なぜ海域の解析ができるのか？

地下天気図解析®が得意な点は、海域の地震活動が解析できる事です。この点に関する詳しい解説が <http://www.duma.co.jp/#!blank-8/inzfr> にございます。お時間のある時にぜひご覧いただければ幸いです。